



62. 10. 18 秋季市民弓道大会 於川崎市富士見弓道場



ホップ、ステップ、ジャンプ、

私の卓球人生

カト ケイコ
加藤 妃生子

●ホップ

霊峰富士の裾野、田園と清水が至る所に湧き出る景勝地、富士宮市に生れ、当時の実家は農工商と巾広く何でもやっていた忙しい家庭でした。八人兄弟の2番目で、父は剣道、姉は陸上(短距離)妹はテニス、弟は野球とスポーツ一家でした。丁度今年で40周年を迎えた富士宮第三中学校の一期生で終戦直後の混乱期で物資も、食糧も不足し大変な時代でした。私が卓球を始めたきっかけは、まだ校舎もなく居候をしていた町の小学校へ、卓球史上初めて海外へ親善使節として訪米する卓球選手団が訪れた時、郷土出身の渡辺暁子選手もその一人、紺のブレザーコートの胸に日の丸のワッペン、白いスカートがとても素敵で強烈な印象を受けました。渡辺選手の挨拶は、「郷土の名誉にかけて頑張って参ります」というようなことでした。全校生徒から熱烈な声援を受けました。団体競技よりどちらかといえば個人競技の好きな私は卓球に入る事に決めました。学校の前の市役所のおじさん達(後に卓球協会の役員と知った)が昼休みに小学校の講堂に来て練習をしているのを見て、ラケットの持ち方、打ち方等を教えていただき、友達と毎日放課後暗くなる迄夢中で練習をし、質の悪いラケットやボールを割った事を思い出します。いつの間にか卓球に大きく一步ステップを踏み出していました。

●ステップ

それから3年、富士宮市でたゞ1校伝統ある女子高校があり、戦後男女共学になりましたが、母も伯母も姉も皆この学校の出身、私は身のひき縮る思いで入学しました。薄暗くまだ夜が明けきれない冷たい朝、早足で学校へ急ぐ日々、爪先を立て足のバネを使って草鞋を履いた背高い奇妙な男生徒に途中でいつも出逢いました。後に走高跳でアジア大会二位の石川行男選手と知り、深く感動した私は、日常生活から卓球に結びつける事に心掛けるようになりました。強烈なサーブを出すために手首の訓練、ボールを見つめる眼の訓練、勿論爪

先で歩く事、そして興味のない授業中は作戦図をノートに書いたりしました。顧問の御宿先生は、1年生の熱心な練習ぶりに、本腰を入れ練習場に来て下さる様になり、夜中の10時、11時迄も練習をした事を忘れません。最初の目標は県大会でした。夏休み前、国体予選を兼ねた県大会が安部川の辺にある静岡商業高校で行われ、新入生の私は、昨年優勝者第1シードのすぐ下に入れられ、1回戦は難なく勝ったものの、2回戦の第1シード山内選手との対戦は忘れもしません、手足が震え、顔面蒼白、熱気でむんむんし、先生や先輩の応援も聞こえない。1セットを軽く落した私に先生は「大きな声を出しなさい、落ち着くから」とアドバイスをして下さいました。2セット、小心者の私は勇気を出して「よし」と驚く程大声を出してみました。身の血がずっと引き、力が抜けてやっと我に返りスマッシュがビーンビーン決まる様になり顔も紅潮し、ついに勝利をものにしました。そして1試合毎に好調になった私は、決勝戦で先輩の川口さん(後に全日本ジュニアチャンピオン)と対戦、初めての同志打ちとなり、先生は私達2人に、台に向ったら先輩も後輩もない、全力を尽くして戦えとアドバイスがあり、お互いに強打の応酬で過去にない程の好試合となり、若くて疲れを知らない私は、快勝して1年生で県下1位の座を占める事が出来ました。全国大会出場権を得て、大きく飛躍致しました。日本一になるのには日本一の練習量が必要だ。365日休む間もない。試合で遠征し帰りはまだ太陽があって明るければ、そのまま学校へ直行し夜中迄練習、私達は忍耐とやる気充分でした。毎日の練習内容は、今思えば単純で「基本と実践」決して高度なものでなく、基本技術を習得し卓球の器を大きくし、ボンミスをしなくする事でした。夏休みに名門専修大学の合宿が私達の高校で行われました。スケールの大きさに驚きました。スマッシュボールが身に当たると丸く跡が付き内出血しているのです。この位の強力なスマッシュがあれば全国大会に通じると目安を決めた私は、女性並では駄目、男性選手と同格に戦える選手になろうと思いやした。当時は参考書もなく、幸いにも卓球界の大先輩である門屋コーチが時々来て下さり指導して下さいて私を大きく育てて下さった恩人でもありました。二年生で念願叶ってついに全国制覇を成し遂げ、高校時代

卓球にかけた情熱は苦しくも勝利の道へ通じる事が出来ました。

●ジャンプ

昭和28年春、卓球の名門専修大学卓球部で女子部の新設を強く希望して私は大学側の要請で同僚3人揃って入学致しました。川崎市の北部、生田の枳形山にキャンパスがあり、古い体育館もその中にありました。起伏の多い丘陵地はトレーニングに絶好地でした。目標のない人生、目標のないスポーツ程つまらないものはありません。目標意識があるからこそ苦しみにも耐えるし情熱を燃やすことが出来ると思います。生理的な限界を乗り越えてこそ進歩があることを悟りました。雨や雪がこわれた窓から入ってくる様な荒れた道場でも、心・技・体を練習する私達にとっては神聖な場所でした。私は大学1年生で信じられない日本一の王座をものにしました。表彰台に立って君が代の斉唱、感無量で涙々でした。翌年4月、日本卓球協会設立以来2回目、第21回世界卓球選手権ロンドン大会に日本代表として出場、恩師門屋コーチのアドバイス通り情けで行くのではなく、堂々日本一となって行く様と言われ、念願叶って幸いでした。以後4年間、2回の団体戦優勝、個人でも2位3位と上位の成績で4年間世界の檯舞台で活躍でき、卓球日本の黄金時代に貢献出来た事は幸せでした。

この様な現役時代を精一杯やり終えて第二の人生に入って30数年が夢の様に過ぎ、今は家事育児もやり終えて、私の人生に再び卓球は切っても切れないものになってしまいました。今から13年前、OB団として中国へ招待された時の事、子供達に国をあげてきびしい英才教育をし、国民全体がスポーツを、今は亡き周恩来首相とも面会し私は10年後の日本を心配しました。1ヶ月の旅を終え帰国して県卓球協会柏木会長からの要請もあり、川崎市、神奈川県、そして日本家庭婦人とママさんの健康と親睦を主眼に次の世代に引き継がれる子供達を考え組織をつくりました。

●そして、いま

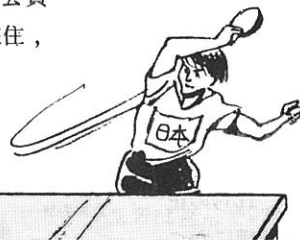
「婦人のスポーツは婦人の手で」をスローガンとして運営すべてママさんの手作りで、地域のニーズに答え、大きく交流の和の輪を広げ、日本全国はもとより世界の国々のママさんとも交流を深めて民際外交のお役に立ちたいと念願しておりま

す。本年4月第8回国際親善婦人卓球大会を香港と中国の桂林で開催する事になり、日本全国から百名余りのママさん選手が参加することになっていて、大会は勿論のこと、交歓の夕べは各国毎の歌の競演を楽しみにしています。幅広い年齢層を対象にスポーツの振興と底辺の拡大を目指し、婦人の地位の向上と生涯スポーツとして、レクリエーションスポーツとして自由に内容も楽しく自分達のできる大会。この様なシステムを作りあげた家庭婦人卓球連盟の会長として関係各位の温いご理解とご指導を仰ぎながら、一衣帯水のごとく頑張っ行ってきたいと思っております。

又、一方多目的に地域の人達の健康づくりの場として使える卓球場を4年前に自宅のビル四階に建てていただいた。学生時代体操が嫌いだった母親はママさん卓球を始め一変し、スポーツの素晴らしさを知り、子供達にもスポーツを勧める様になり、その子供達が幼稚園から中学生まで放課後大勢やって来ます。4年前にできた全日本小学生の部には毎年県予選を通過し一生懸命頑張ってくれます。昨年福岡市で行われ、神奈川県の出場資格者24名中、半数の12名がKMSC(カトウメモリアルスポーツクラブ)で頑張り、1年生と2年生の女子が6位と7位に入賞しました。今年も又楽しみですが、目先の勝負のみにこだわらず、将来、世界に通じる選手に育てたいと、子供達と一体となって体力の続く限り頑張りたいと思っています。

(筆者略歴)

日本神奈川県・川崎市家庭婦人卓球連盟会長
加藤メモリアルスポーツセンター主宰
元世界卓球選手権大会団体優勝メンバー(1954・57)
元、全日本卓球チャンピオン
川崎市レクリエーション連盟監事
体協賛助会員
川崎市在住、



スポーツ事故の応急手当法(第8回)

(各種の傷について(2))

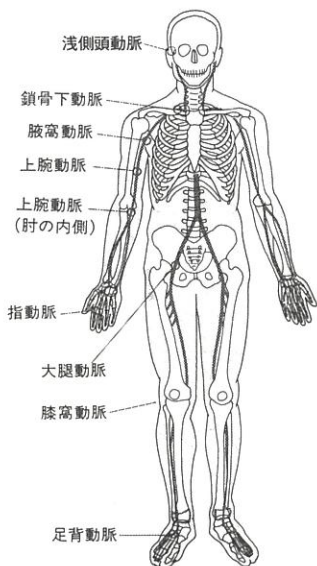
止血法

川崎体育救護クラブ副会長 左沢重明
日赤神奈川委嘱救急法講師

(イラスト 赤十字救急法教本ほかより)

前号で述べたように、小さな傷口で出血も少ない場合には、滅菌したガーゼを直接患部に当てて圧迫すれば出血はおさまるが、1~2cm程度の傷口の場合は、ステリーストリップを用いるとよい。これは強い接着力があり、完全滅菌されている。皮膚縫合の代用品として用いられているので、郊外でのスポーツなどの場合には用意しておくことと緊急時に役に立つであろう。これがない場合には一般のバンドエイドを用いてもよいが、バンドエイドの中には水気がつくとすぐにはがれてしまうものもあるので、水に強い製品がよい。まず、ステリーストリップなりバンドエイドを台紙からはがし、傷の方向とは直角に一端を貼布してから、他方の端を拇指と示指でつまみ、中指で傷口を寄せ合わせて貼るようにするとよい。そしてその上から包帯をすれば出血は間もなくおさまるであろう。

このように傷口を圧迫して止血する方法を直接圧迫法というが、大きな傷の場合にはこれだけではなかなか血が止まらない場合がある。このような時には間接圧迫法といって、傷に近い部位の動脈を手や指で圧迫して、傷口への血液の流れを一時的に止めてしまう方法がある。その場所を止血点という。人体の主要な動脈と、それが皮膚の表面近くに来ているところ、すなわち止血点は図の通りである。これらの止血点を適確にかつ



迅速に圧迫すれば出血は止めることができる。この間接圧迫法と直接圧迫法とを併用すれば、まずほとんどの傷は止血することが出来る。俗によく云われている傷の上部を紐できつく縛る方法は危険であるので、むやみに用いるべきではない。

【上腕動脈の止め方】

肘より先端の傷の止血点については、肘の内側・手首の付け根の表側・指動脈などがあるが、容易に止血できる圧迫点は上腕での止血である。

下図のように、拇指が上腕中央内側(力こぶの出来る部分の内側一筋肉の凹みを感じる点)にあたるように、下方から力を入れてつかみ、同時に



下は引っ張るようにする。この時注意することは、拇指の爪を立てないこと。

と。拇指の腹を広く止血点に当てれば、圧迫痛を与えることなく止血できるものである。

【鎖骨下動脈の止め方】

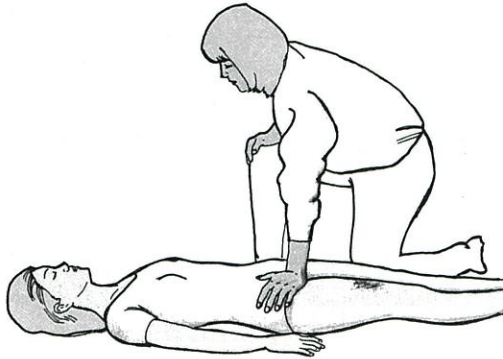
鎖骨のくぼみ(鎖骨上窩)の下の動脈(鎖骨下動脈)を拇指で圧迫することにより、肩から下方の大出血を止めることができる。

鎖骨のくぼみに拇指をあて、からだの中心下方(へその方向)に向けて圧迫する。他方の手を患者の頭部にあて、手前に傾ければ上窩はさらによくくぼみ止血しやすくなる。術者は患者の真横に位置し、自分の拇指と示指をいっぱいひろげ、患者の首の側方付け根にあてれば、拇指が丁度止血点の所へ来るので容易に止めることができる。

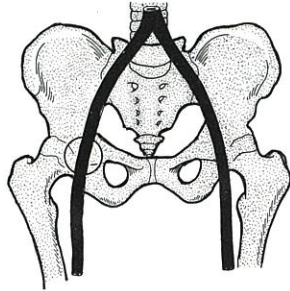
【大腿動脈の止め方】

下肢の大出血はなかなか止めにくいものである

が、そけい部（股のつけ根）の中央で大腿動脈を
圧迫すれば、容易に止血することができる。



術者は、止めようとする患者の下肢の反対側に、
患者に近い方の自分の片膝をつく。中指の先端を、
患者の腰骨の先端
に当て、そのまま
掌全体を下ろすと
拇指丘（おや指の
付け根の掌のふく
らみ）が止血点に
来るので、肘を曲
げずにその腕に自
分の体重をかけて
真上から圧迫する。



【その他の止血点】については今回は触れられな
いが、いずれかの機会にまた述べたいと思う。
次回は鼻出血その他について記したい。



● 国体を視察して

陸上競技 芳賀学人

「きらめく太陽ひろがる友情」をスローガンに
南国沖縄で熱戦を展開した全国一巡をしめくくる
第42回国民体育大会秋季大会（海邦国体）は、
10月25日に開会式が、10月26日から各競技
が一齐にスタートした。今年の大会は全国一巡の
最後の国体であると同時に開催地が沖縄であるこ
とに今大会の大きな特色と意義があったと思われ
る。さんさんとふりそそぐまばゆいばかりの太陽
空から見る果しない海の碧さに驚嘆すると共に、
戦中、さらに戦後も長く続いた悲惨な状況を乗り
こえて、開かれた国体という点で私は大きな感銘
を受けた。

沖縄本島の中央部に位置する沖縄市に建設され
た県総合運動公園には、南国的な公園の中に、開
会式の会場となった陸上競技場をはじめ、体育館、
サッカー場、テニスコート、自転車競技場等が
あり、それぞれがすばらしい設備で、それを運営す
る役員や裏方の人々が、「メンソーレ（いらっし
ゃいませ）沖縄」という言葉通りに、沖縄に来た
役員、選手に対して心からの歓迎をしているの
を見て頭の下がる思いであった。選手の皆さんも
このような歓迎をうけた事を十分に心にとどめた事
と思われた。



次に陸上競技の運営や審判について、特に印
象に残った少年Aの100米について述べたい。

先ず審判員であるが、よく努力しているが、全
体的に動きがかたく、鈍いように思われた。大き
な大会に慣れない事と真夏のような暑さの中で
行われた事も原因かも知れないが、特に気になっ
たのは雰囲気盛り上げるための苦労は理解できる

が、通信員のしゃべりすぎは少し耳ざわりであった。陸上競技の大会では、観客にも理解してもらうために解説を加えるのは当然の事であるが、選手の立場にも立って、全体の進行を見ながら静と動の面をもう少し調和をとって欲しいと思われた。しかし、大きな大会を経験するチャンスが少いことを考えれば、上々の出来で、大成功ではなかったかと思われた。

陸上競技第1日目には、注目の少年男子A 100米で、短距離の次代を背負う、高校チャンピオンの大沢知宏(埼玉・松山)とラグビー少年の中道貴之(三重・木本)の2人が大レースを演じた。2人は、予選、準決勝と真夏を思わせる強い日差しを浴びながら、順調に決勝へとコマを進めた。ライバル対決への期待がふくらむ中、決勝約1時間前、にわか雨、それもドンシャ降り、嵐のような雨と風、この間に風は追い風になった。スタートでは中道がリード、50米付近で大沢が並び、そしてストライドが伸びて完全にリードしてゴールに入った。タイムは追い風2.7米で参考記録であったが10秒19、日本新を上回る好タイムで中道も健闘して10秒31で2位であった。

昨年陸上競技の県チームは天皇杯(男女総合)3位と好調だったが、ことは8位以内に入賞を果せずに終わった。ただ女子総合は7位に、皇后杯は5点で7位に入賞した。

● 沖縄国体視察報告

川崎野球協会副理事長 川島 哲男

「きらめく太陽、ひろがる友情」をスローガンに、全国一巡を締めくくる意義深い第42回国民体育大会(海邦国体)が、去る10月25日(日)より、南国沖縄県で開催された。戦中、さらに戦後も長く続いた悲惨な状況乗り越えて開かれた国体。そこに今大会の大きな特色があったように思う。

折りからの台風20号の余波も影響したのか、開会式当日から連日30度を越す猛暑が続いた。亜熱帯の地での開催を誇るかの如く、時折り猛烈なスコールが見舞う。そのスコールが芝生を洗い、より鮮やかな緑にする。試合続行が不可能と思う



程の量が短時間に降るが、その水もアッ!と驚く程の早さで引いて乾く。試合は若干遅れるものの、まずまずの予定で消化される。やはり南国だなあと感じた。

軟式野球競技は、成年の部が糸満市、少年男子が佐敷町を中心会場として開催された。糸満市の西崎総合運動公園には「海邦国体開催記念碑」が完成し、軟式野球に参加した28チーム420人の監督・選手の名前が彫られている。海邦国体に参加した監督・選手にとっては、記念碑に永遠に名前が残り、良き思い出の地になることだろう。

さて、我が神奈川県代表アンリツの初戦の相手は福岡県である。若い選手が多く、元気、動き共になかなかの好チーム。30度を越す猛暑の中でプレイボール。猛暑も何のその、両軍投手の好投で息づまる投手戦を展開するも、8回に敵失で1点を取り1対0で快勝。第二戦は山形県チーム。先取点を許すも9回に同点に追いつき、延長11回、猛打が爆発し4点を奪い5対3で振り切る。いよいよ準々決勝進出。神奈川県としては郡馬県で開催された第38回あかぎ国体で、日本冶金クラブ(少年男子)が準決勝に勝ち進んで以来、久々である。相手は試合巧者、長野県チーム。両チーム互いに譲らず、3対3で2回戦に続き延長戦へ。アンリツの山田投手、猛暑の中での連戦、3連投の疲れが出たのか16回に力尽き、1点を許し3対4で惜敗した。

敗れたとは言え、アンリツの山田清投手は41才の年令をもともせず3試合を完投。熟年のヘッドワーク、持ち前のコントロールの良さを駆使し、相手チームを翻弄した快投は、胸のすく思いであった。山田投手のこのフェイト、気力に心から敬意を表すと同時に、若い選手諸君に是非見習って欲しいものである。山田投手を初め、アンリ

ツの選手の皆さん、お疲れさんでした。

63年から国体はいよいよ二巡目に入る。第43回の関東ブロック大会が神奈川県で開催される。この地の利を生かして、何とか川崎から代表を送りたいものである。私も今まで学んできた経験を生かし、往年の野球王国・川崎を復活させるべく、微力乍らお手伝いしたい所存である。

● 沖縄海邦国体を見て

ラグビーフットボール協会 今村 貞

10月25日から10月30日まで、沖縄県全土で各種競技が行なわれた。

私は主にラグビーフットボール競技を見学して来ました。

沖縄の那覇空港へ到着してまず第一声が、うわー暑いであった。10月下旬なのに32度を越す、真夏の暑さだ。各競技選手は体調を整えるのに苦労していた(特にラグビーの選手は)。

ラグビーの競技会場は、成年の部、具志川市総合グラウンド、少年の部、名護市21世紀の森ラグビー場でそれぞれ行なわれた。

1日目は成年の試合と2日目、3日目は少年の試合を見学した。ラグビー競技は特にこの炎天下でのゲームは非常に気の毒であった(ジャージを着ただけで汗だくである)、競技場内の設備やグラウンドが良く整備されていた。グラウンドは緑のシュータン(芝生)で廻りも広く、スタンドも見やすいし、その他に、サブグラウンドが競技場の脇に、それも又芝生の良いグラウンドである。

各種競技会場には本部が設置されていて、そこ

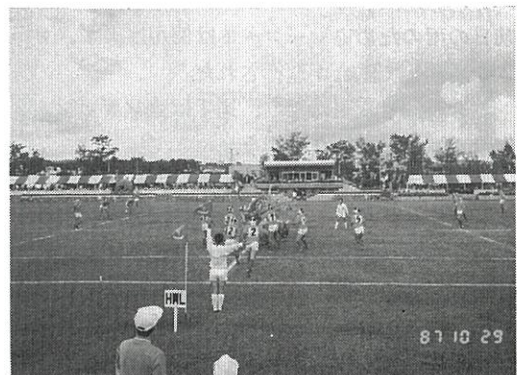
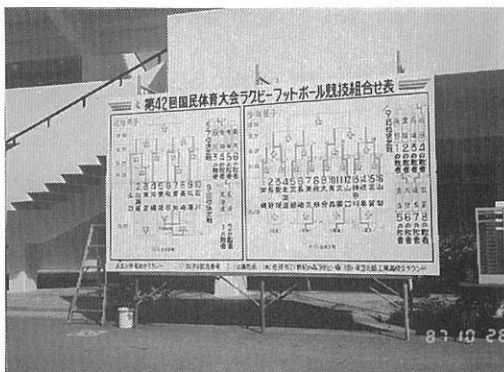
の競技は勿論、他の競技速報もどんどん掲示されるので、居ながらにして各競技結果が手に取る様に良くわかる。又競技会場前には見学者用の無料休憩所のテントが張られていてゲームの合い間に沖縄特産のお菓子や冷めたいジュース等の接待のサービスが親切で、かゆい所に手が届く様であった。

私が見学した三つの競技場では、テレビやラジオで報道されていた反対派(過激派)の行動はどこにも見られなかった。それよりも沖縄県民がこの海邦国体を成功させようと努力している姿を目の当たりに見て感激しました。それは国体の役員だけではなく、街のおばさん(奥様方)までが一生涯懸命に会場の廻りを清掃したり、お茶の接待をしたり、お花の手入れ等のお手伝いをしている姿は本当に心暖まる思いであった。

競技運営については、何んとなくのんびりムードの様であった。私がキックオフの一時間前にグラウンドへ着いたが、役員は誰れも居ないのにはビックリした。沖縄はご承知の通り鉄道が無く交通機関はバスとタクシーだけなので道路が少し混雑すると、思った時間に目的地に着けない不便さがあった。

この沖縄海邦国体は競技場の施設、運営、それにも増して、県民全体がこの国体を運営しているのかなあーと勘違いする程、街の隅々まで国体一色であった。

先に書いた通り私はラグビーだけを見学したので全体の競技内容については良くわかりませんが、私の見た限りでは平穩無事で、この海邦国体の幕を閉じたのではないかと思います。



● 国体を視察して

高瀬健二(テニス)

“きらめく太陽、ひろがる友情”というキャッチフレーズのもと、海邦国体は、日本最南端、鹿児島から670 Km、台湾から10 Kmに位置する沖縄県で行われた。

戦後42年を迎えて“もはや戦後ではない”といわれてから久しい本土と異なり、戦後27年の米軍統治のあと、復帰15年の沖縄にとっては、“国体を成功させることで戦後は終わらせたい”とする考え方にもさまざまな議論があること、また島に足を踏み入れると道路にそって延々と続く基地の鉄柵、鉄条網をみると、“いまだ戦後は終わらない”とする県民感情も理解出来るような気がする。

このような環境の中で、どのような国体が行われるのか、昭和39年以来続いている開催県優勝の記録が保持出来るのか強い興味もたれた。

10月24日、国体特別機で現地着、競技会場の奥武山総合運動公園(13面、うちオールウェザー5面)漫湖公園(10面、うちオールウェザー6面)を視察した。

両会場共クレーコートは前日来の雨のため軟弱で、関係者はコート整備に余念がなかった。

10月25日、開会式。朝から時々俄雨が降り心配されたが、集団演技が終る頃には強い日射しが照りつけるようになり、県選手団も力強く入場行進を行った。

10月26日、種目別開会式のあと試合開始。前日の雨のためクレーコートは使用出来ず、ゲームを短縮して試合が進行された。

試合時間も変更になり、選手はコンディション作りが難かしかったと思う。

県選手団は組合せの不運もあったが、少年男子が3位、成年男子・少年女子がベスト8、成年女子は2回戦に進出。総合3位の好成績をおさめた。

63年神奈川県ミニ国体のテニス競技は、川崎での開催が決定している。

国体に限らず、大会スケジュールを確実に消化するため、また施設の利用効率を高めるためにも、市営のオールウェザーコートの出現が待望される。

昭和62年度 家庭婦人 テニス大会



本年度の上記大会が10月27日・28日・29日の3日間、等々力テニスコートにおいて盛大に行われた。

最近のテニスブームを反映して申し込み期間を6日間とってあったが、3日間で定員となり遅れて申し込みをされた方々には、ご辞退をお願いする始末で、次年度からは定員・日数の考慮が必要と、主催・主管団体に話し合った。

結局200チームの募集が208チームになり、52チームずつA～Dの4ブロックにわけドローを作成し、A・Bブロックの1・2・3回戦を27日に、C・Dブロックの1・2・3回戦を28日に、残りを29日と予定を立てた。しかし、27日は前夜来の雨のためコート状態が悪く、定刻開始が不可能となった。役員総出でコート整備にあたり、午後より開始となったため、予定の1回戦のみ実施となり2回戦以後は29日に延期となった。28・29日は快晴に恵まれ、早朝より各コートで熱戦が展開されたが、29日については、27日実施分のゲームが延期されてきたため、最後のゲームは5時を過ぎ暗い状態でボールがはっきり見えず気の毒なゲームであった。特に決勝に残ったチームはレベルも高く、ラリーも長く続いて、好ゲームであったので、好コンディションで試合が出来ずに残念であった。



(大会成績)

- A組 優勝 朝見・土田組
 第2位 長谷川・田畑組
 第3位 窪田・宝田組
 第3位 高林・石川組
- B組 優勝 米田・武者組
 第2位 池田・塩見組
 第3位 吉崎・高橋組
 第3位 西田・山口組
- C組 優勝 梅田・森脇組
 第2位 小林・内川組
 第3位 樋田・飯嶋組
 第3位 谷口・荻原組
- D組 優勝 長田・山口組
 第2位 島田・徳田組
 第3位 興津・甲府方組
 第3位 吉沢・永見組

- 一般女子 1位 川崎弓道会 柳下恭子
 総合 2位 東芝小向 児玉智子
 3位 日電玉川 小柳洋子
 3位 日電玉川 蒔田真裕美
- 高校男子 1位 川崎工業高校 森山 哲
 総合 2位 川崎工業高校 浜田英樹
 3位 川崎工業高校 佐々木剛
 3位 川崎工業高校 菊地



秋季市民弓道大会

(結果報告)



川崎市弓道連盟

理事長 小口常雄

- 露的団体 1位 東芝小向(A) 山田, 児玉, 杉山
 2位 東芝小向(B) 山下, 藤森, 松岡
 3位 川崎工業高校(C) 佐々木, 浜田
 森山
- 個人 1位 東芝小向 山田尚志
 2位 東芝小向 山下直寛
 3位 川崎弓道会 小口常雄
- 色的団体 1位 東芝小向(B) 山下, 藤森, 松岡
 2位 川崎工業高校(C) 佐々木, 浜田
 森山
 3位 東芝小向(A) 山田, 児玉, 杉山
- 個人 1位 川崎工業高校 森山 哲
 2位 日鉄建材 石渡澄穂
 3位 川崎弓道会 柳下恭子
- 一般男子 1位 東芝小向 山田尚志
 総合 2位 東芝小向 山下直寛
 3位 川崎弓道会 小口常雄

最近女性の弓道人口が急増しています。将来、「ママさん教室」を開催し更に底辺の拡大を計りたいと思います。

礼に始まり礼に終わる日本古来の武道の中でも、特に日常生活に密着、順応できる弓道の良さを、皆様方に理解して頂きたいと思います。

体協主催事業報告

(事業委員会)



○短期婦人水泳教室

初心の婦人を対象に堤根温水プールで水泳教室を本市体協ちして、初めて開催した。

ご婦人の冬季運動不足の解消と、各種泳法のマスターを目標に、本市水泳協会公認指導員の方々をお願いして、参加者を募集した所、多数の応募者があり、受付開始初日で定員オーバーの状況で、反響の大きさに驚かされた。

1月21日、22日、25日、26日、28日と5日間午後1時から3時までの短期ではあったが、それなりの効果はあり、受講者は喜んでいた。

第21回

バスケットボール日本リーグ — 川崎大会 —

標記大会が本市体協主催事業として挙行されることになった。日本を代表するバスケットボールの最高のゲームを、身近に観戦できる又とない機会であると同時に、本市に所属する東芝の活躍を期待し、皆様方と一緒に応援しましょう。

- 期日 昭和63年2月14日(日)10時開場
会場 川崎市体育館
試合 ①新日本製鉄 対 丸 紅(男子2部)
②重工長崎 対 三井生命(女子2部)
③東 芝 対 松下電器(男子1部)

加藤時太郎氏受賞



昭和62年度神奈川県体育功労者として、本協会内野球協会理事長加藤時太郎氏が、昭和62年10月17日、鶴見会館ホールにおいて、国体選手

壮行会の席上で表彰された。

氏は、昭和24年より現在にいたるまで、日本野球連盟技術審判員として少年野球から都市対抗野球にいたる幅広い大会の運営に献身的に尽力し、本県野球競技の普及・振興に貢献してきた。また、昭和51年から川崎市野球協会審判長として定期的に研修会等を開催し、審判員の技術向上と指導者の育成に努めてきた。昭和52年には市野球協会理事長に就任し、昭和61年よりはじまった川崎市とアメリカ・ボルチモア市との少年野球交流事業にも積極的に取組むなど、青少年の国際交流に寄与する等、その功績はまことに顕著であった。

上記により神奈川県教育委員会より表彰状を受けられたが、川崎市体育協会の皆様方と一緒に喜びを申し上げます。

本市体協理事

大谷金一氏

本年度文部大臣表彰される！



62年9月9日から札幌市において、第29回全国体育指導委員研究協議会が開催され、本市から7人の体育指導委員が参加し、全国から集まった体育指導委員と各分科会に分れ、情報の交換と交流を深めた。

本大会の開会に先だち、文部省体育局スポーツ課長の挨拶、札幌市長の歓迎の挨拶、引き続き文部大臣表彰式に移り、本市体育指導委員連絡協議会会長の大谷金一氏が文部大臣表彰を受けられた。これは5年に一度表彰が行われており、本市では西沢前会長に続いて2人目の受賞となった。

また、全国体育指導委員功労者表彰が同時に行なわれ、体指副会長の飯塚英市氏が受賞し、川崎市体育指導委員としては二重の喜びであった。

(大谷金一氏略歴)

- 昭和47年4月 川崎市体育指導委員
昭和49年4月 中原区体育指導委員
昭和51年4月 市体育指導委員連絡協議会副会長
昭和57年4月 同上協議会会長現在に至る
昭和59年4月 市スポーツ振興審議員現在に至る

その他数多くのスポーツ・レクリエーション関係の要職について、活躍されている。



第39回神奈川県総合体育大会日程一覧表

	競技名	本大会		予選会	
		期日	会場	期日	会場
冬季	スキー競技	3月4日(金) 3月6日(日)	長野県野辺山ハイランド スキー場		
夏季	ソフトボール競技	8月21日(日)	大和市引地台野球場 (予選日雨天順延の場合は予選日会場)	8月14日(日)	大和市下福田野球場 〃 引地台野球場 〃 つきみ野公園野球場 〃 つきみ野中学校
	軟式庭球競技	8月21日(日)	平塚市軟式庭球場		
	水泳競技	8月21日(日)	県立体育センター		
秋季	陸上競技	9月25日(日)	県立体育センター		
	バレーボール競技	9月25日(日)	県立体育センター (一般男子) (一般女子) 県立県央地区体育センター (青年男子) 県立西湘地区体育センター (青年女子)	9月18日(日)	藤沢市秋葉台 スポーツセンター (一般男子) 県立体育センター (一般女子)
	軟式野球競技	9月25日(日)	県立相模原球場 茅ヶ崎市営球場	9月18日(日)	県立相模原球場 大和市引地台野球場 茅ヶ崎市営球場 厚木市玉川球場 海老名市運動公園球場
	サッカー競技	9月25日(日)	県立体育センター	9月18日(日)	県立体育センター 藤沢市秋葉台 スポーツセンター
	卓球競技	9月25日(日)	藤沢市秩父宮記念体育館		
	バスケットボール 競技	9月25日(日)	平塚市見附台体育館 (一般) (青年)	9月18日(日)	平塚市見附台体育館(一般) 大和市スポーツセンター (青年)
	柔道競技	9月25日(日)	県立武道館		
冬季	剣道競技	9月25日(日)	県立武道館		
	弓道競技	9月25日(日)	県立武道館		
	バドミントン競技	9月25日(日)	相模原市総合体育館	9月18日(日)	相模原市総合体育館
	クレー射撃競技	9月25日(日)	県立伊勢原射撃場		

昭和62年度 社会体育指導者スポー ツ医学講座 開催される



本年度のスポーツ医学講座が、県教委・県体協主催のもとに、川崎市体協が主管し、62年11月29日・12月6日の2日間、市立産業文化会館会議室において開催された。

参加対象は各種目協会代表、スポーツ指導員、体育指導委員、生涯スポーツリーダー等の方々にご案内をし、定員70名募集で実施したが、申込みの段階で定員オーバーでおことわりをした方も出るような次第で、受講者の熱意に驚かされた。

29日定刻10時より県体協専務理事若崎重富氏、市体協副会長中野一雄氏の挨拶に続き、日体協公認スポーツドクター坪田修三先生による「運動生理」の講義が行われ、呼吸・循環器系におよぼす運動の効果として、心臓の働きを中心に貴重な話をうかがった。次いで昼休み後、日体協公認スポーツドクター坂西英夫先生より、「整形外科」の項目で各種外傷・障害について、実例のスライドを見ながら、各スポーツによる障害の実態等を懇切に説明を受けた。以後質疑応答を行ったが、受



講者より活発な質問が多数出され、有意義な初日であった。

6日前夜来の降雪で受講者の出足が危ぶまれたが、定刻ほど全員が集合し、テーピングに関する正しい理解とその実際について、ソニー企業専属スタッフ宇野一弥先生より、実習とそれに伴う応用を、実際に行って良い体験をした。

2日間ではあったが、受講者の方々の反響は大きく、今後も是非開催して欲しいという要望が強かった。

編集後記

新春を迎えスポーツ川崎第19号をお届けします。

今回は特集として卓球の加藤さんより記事を戴き、海邦団体の視察報告と併せて掲載しました。

次号は第20号発行になりますが、記念号として体協40周年事業、国体関東ブロック大会等の記事を掲載する予定です。



スポーツ川崎 19・昭和63年2月9日発行・編集、発行所 川崎市体育協会広報委員会
〒210 川崎市川崎区宮本町6番地 川崎市教育委員会体育課内 電話044-200-3312

— 印刷・秋田印刷有限会社 電話044-766-5650 —